

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果

草津市教育委員会

令和6年8月9日

調査概要と結果

- 調査の目的**
 - ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 調査実施日** 令和6年4月18日（木）
- 調査対象**
小学校調査 市内公立小学校6年生 1,386人
中学校調査 市内公立中学校3年生 1,126人
- 調査内容**
 - ①教科に関する調査**（小学生：国語、算数 中学生：国語、数学）
 - ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
 - ・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等
 - ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査**
 - ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
 - （例）学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、基本的生活習慣等、家庭学習の状況 など
- 調査の方法**

◎小学校

1時間目	2時間目	
国語(45分)	算数(45分)	児童質問紙 (20分程度)

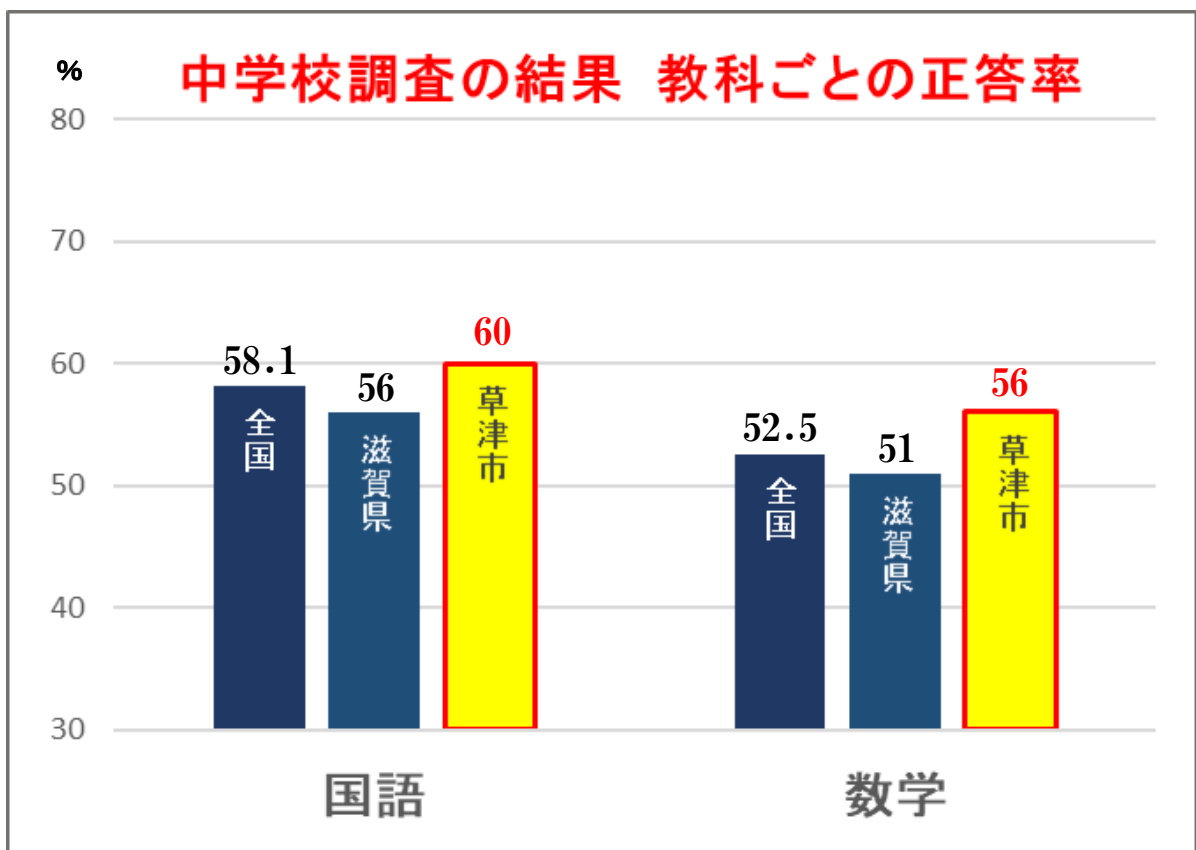
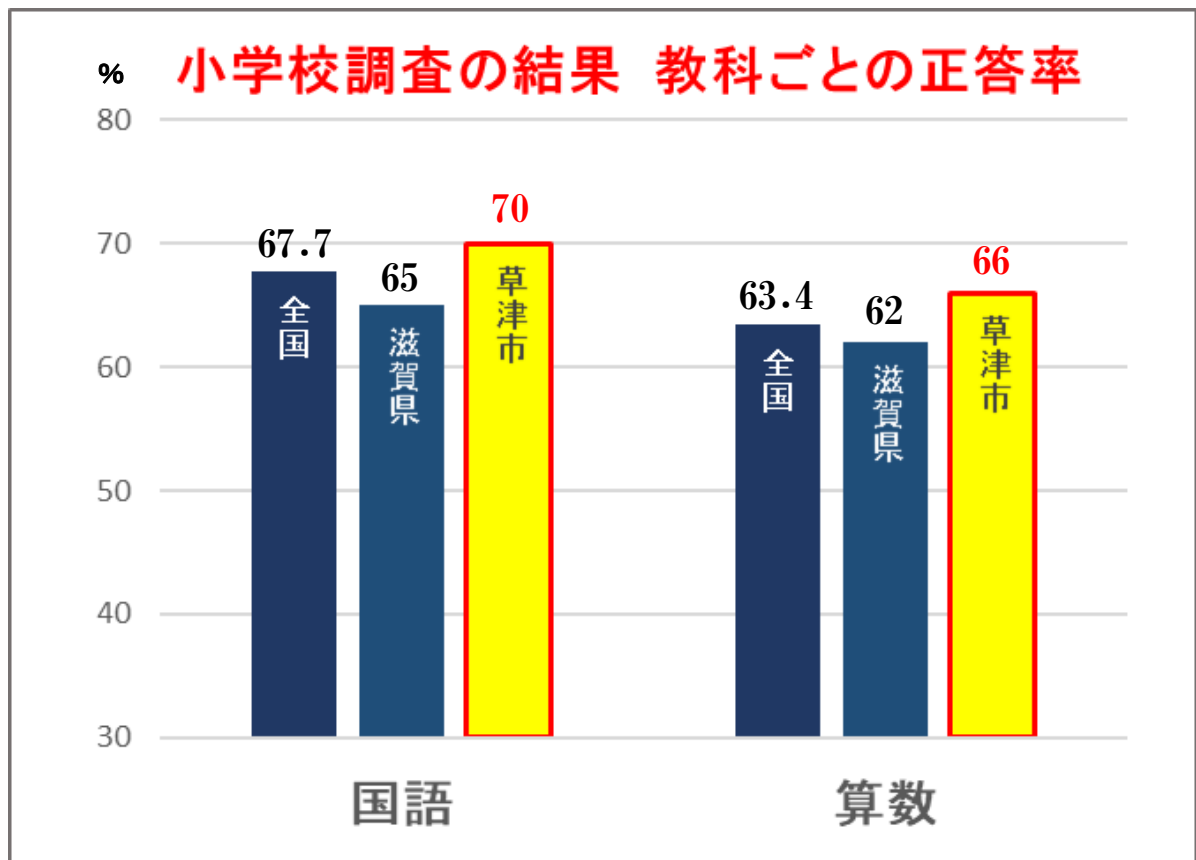
◎中学校

1時間目	2時間目	
国語(50分)	数学(50分)	生徒質問紙 (20分程度)

※児童生徒質問紙調査は、原則全ての児童生徒を対象に、オンライン方式により実施。

教科に関する調査結果

教科に関する調査では、小中学校の正答率が、国語、算数・数学ともに全国平均と滋賀県平均を上回る結果となりました。



生活習慣や学習環境に関する調査結果

◆児童生徒に対する調査

《小学生》 ※数字は、質問に対して「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と答えた児童の割合を表示しています。

小学生を対象にした「児童質問紙調査」 63 項目の結果を掲載します。 (単位：%)

	質問項目	草津市	全国
1	朝食を毎日食べている。	95.3	93.7
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	84.0	82.9
3	毎日、同じくらいの時刻に起きている。	93.1	91.6
4	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たり 1 時間以上、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っている。（遊びなどの目的に使う時間は除く）	18.3	19.8
5	普段（月曜日から金曜日）、1 日当たり 2 時間以上、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしている。	48.8	49.2
6	普段（月曜日から金曜日）、1 日当たり 2 時間以上、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしている。（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）	32.1	33.8
7	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。	69.9	71.1
8	健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てている。	83.2	82.3
9	自分には、よいところがあると思う。	83.8	84.1
10	先生は、わたしのよいところを認めてくれていると思う。	89.5	89.9
11	将来の夢や目標を持っている。	80.0	82.4
12	人が困っているときは、進んで助けている。	92.6	92.7
13	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	98.3	96.7
14	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。	68.4	67.1
15	人の役に立つ人間になりたいと思う。	97.4	95.9
16	学校に行くのは楽しいと思う。	86.4	84.8
17	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。	75.5	75.8
18	友達関係に満足している。	91.9	91.1
19	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはある。	91.9	91.7
20	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。	81.6	80.7
21	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たり 2 時間以上、勉強している。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	28.8	23.5

22	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり2時間以上、勉強している。 (学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)	24.3	21.5
23	家には、およそ101冊以上の本がある。	39.1	31.9
24	新聞を週に1～3回程度以上読んでいます。	13.1	11.6
25	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。	84.9	84.9
26 ①	放課後や週末に、家で勉強や読書をしていることが多い。	54.0	49.3
26 ②	放課後や週末に、放課後子供教室や放課後児童クラブ(学童保育)に参加していることが多い。	4.2	5.7
26 ③	放課後や週末に、地域の活動に参加していることが多い。(地域学校協働本部や地域住民などによる学習・体験プログラムを含む)	4.8	4.4
26 ④	放課後や週末に、学習塾など学校や家以外の場所で勉強していることが多い。	33.2	24.4
26 ⑤	放課後や週末に、習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしていることが多い。	47.5	38.2
26 ⑥	放課後や週末に、スポーツ(スポーツに関する習い事を含む)をしていることが多い。	48.9	46.7
26 ⑦	放課後や週末に、家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしていることが多い。	81.8	79.1
26 ⑧	放課後や週末に、家族と過ごしていることが多い。	68.8	65.6
26 ⑨	放課後や週末に、友達と遊んでいることが多い。	67.0	64.2
27	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用した。	88.8	85.5
28 ①	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、(1)自分のペースで理解しながら学習を進めることができた。	87.4	85.5
28 ②	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、(2)分からないことがあった時に、すぐに調べることができた。	93.5	92.1
28 ③	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、(3)楽しみながら学習を進めることができた。	86.9	86.0
28 ④	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、(4)画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かった。	92.2	89.8
28 ⑤	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、(5)自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができた。	81.5	79.2
28 ⑥	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、(6)友達と考えを共有したり比べたりしやすくなった。	89.1	86.1

28	⑦ 5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、(7) 友達と協力しながら学習を進めることができた。	89.7	87.1
29	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。	69.2	67.6
30	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。	83.7	81.9
31	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。	80.5	79.6
32	5年生までに受けた授業は、自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていた。	85.3	84.3
33	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	87.9	86.3
34	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。	81.8	80.8
35	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う。	84.9	83.7
36	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。	86.5	87.9
37	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。	91.5	91.6
38	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	81.2	81.3
39	学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。	84.3	84.2
40	学級活動における学級での話し合いを生かし、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。	82.6	82.5
41	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。	87.1	88.2
42	国語の勉強は好きだ。	64.0	62.0
43	国語の勉強は大切だ。	96.5	94.5
44	国語の授業の内容はよく分かる。	88.2	86.3
45	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	95.0	93.2
46	国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理している。	79.7	78.3
47	国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えている。	81.2	80.0
48	国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いている。	84.4	83.2

49	国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目している。	85.3	84.4
50	算数の勉強は好きだ。	57.5	61.0
51	算数の勉強は大切だと思う。	96.1	94.6
52	算数の授業の内容はよく分かる。	85.3	82.1
53	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	95.6	94.1
54	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。	77.9	77.9
55	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。	84.3	83.3
56	算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている。	61.8	63.6
57	算数の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしている。	85.6	84.6
58	理科の勉強は好きだ。	84.7	83.6
59	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがある。	84.0	83.2
60	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。	86.2	85.6
61	英語の勉強は好きだ。	72.1	69.3
62	英語の勉強は大切だと思う。	94.6	92.1
63	英語の授業の内容はよく分かる。	81.4	78.3

《中学生》 ※数字は、質問に対して「当てはまる」「どちらかというと当てはまる」と答えた生徒の割合を表示しています。

中学生を対象にした「生徒質問紙調査」65項目の結果を掲載します。 (単位:%)

	質問項目	草津市	全国
1	朝食を毎日食べている。	92.6	91.2
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	78.7	80.7
3	毎日、同じくらいの時刻に起きている。	88.9	92.5
4	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っている。（遊びなどの目的に使う時間は除く）	14.3	16.6
5	普段（月曜日から金曜日）、1日当たり2時間以上、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしている。	50.5	48.9
6	普段（月曜日から金曜日）、1日当たり2時間以上、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしている。（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）	58.8	55.9
7	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。	70.8	72.2
8	健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てている。	70.8	76.7

9	自分には、よいところがあると思う。	78.8	83.3
10	先生は、わたしのよいところを認めてくれていると思う。	90.1	90.4
11	将来の夢や目標を持っている。	63.7	66.3
12	人が困っているときは、進んで助けている。	86.5	90.1
13	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	96.4	95.7
14	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。	67.1	67.5
15	人の役に立つ人間になりたいと思う。	94.9	95.2
16	学校に行くのは楽しいと思う。	81.2	83.8
17	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。	76.9	76.2
18	友達関係に満足している。	89.4	90.1
19	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはある。	88.6	89.8
20	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。	75.4	78.6
21	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり2時間以上、勉強している。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	41.2	31.7
22	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり2時間以上、勉強している。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	41.1	36.2
23	家には、およそ101冊以上の本がある。	30.6	28.3
24	新聞を週に1～3回程度以上読んでいます。	6.7	7.3
25	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。	72.0	76.1
26 ①	放課後や週末に、学校の部活動に参加していることが多い。	69.9	71.1
26 ②	放課後や週末に、家で勉強や読書をしていることが多い。	50.5	46.1
26 ③	放課後や週末に、地域の活動に参加していることが多い。（地域学校協働本部や地域住民などによる学習・体験プログラムを含む）	3.9	3.9
26 ④	放課後や週末に、学習塾など学校や家以外の場所で勉強していることが多い。	49.4	38.5
26 ⑤	放課後や週末に、習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしていることが多い。	31.4	23.6
26 ⑥	放課後や週末に、スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしていることが多い。	29.3	30.4
26 ⑦	放課後や週末に、家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしていることが多い。	91.3	88.6
26 ⑧	放課後や週末に、家族と過ごしていることが多い。	71.7	68.0

26 ⑨	放課後や週末に、友達と遊んでいることが多い。	66.2	62.3
27	2年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用した。	94.9	89.0
28 ①	1、2年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、(1)自分のペースで理解しながら学習を進めることができた。	71.9	80.2
28 ②	1、2年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、(2)分からないことがあった時に、すぐに調べることができた。	90.9	93.9
28 ③	1、2年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、(3)楽しみながら学習を進めることができた。	75.1	82.4
28 ④	1、2年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、(4)画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かった。	85.5	89.0
28 ⑤	1、2年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、(5)自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができた。	73.2	77.7
28 ⑥	1、2年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、(6)友達と考えを共有したり比べたりしやすくなった。	85.3	86.2
28 ⑦	1、2年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、(7)友達と協力しながら学習を進めることができた。	81.5	85.2
29	1、2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。	58.9	64.8
30	1、2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。	76.2	80.3
31	1、2年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。	70.2	75.4
32	1、2年生までに受けた授業は、自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていた。	76.2	80.9
33	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	83.9	86.1
34	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。	74.2	77.9
35	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う。	73.6	79.0
36	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。	82.7	84.9
37	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。	88.5	92.3
38	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	76.9	82.2

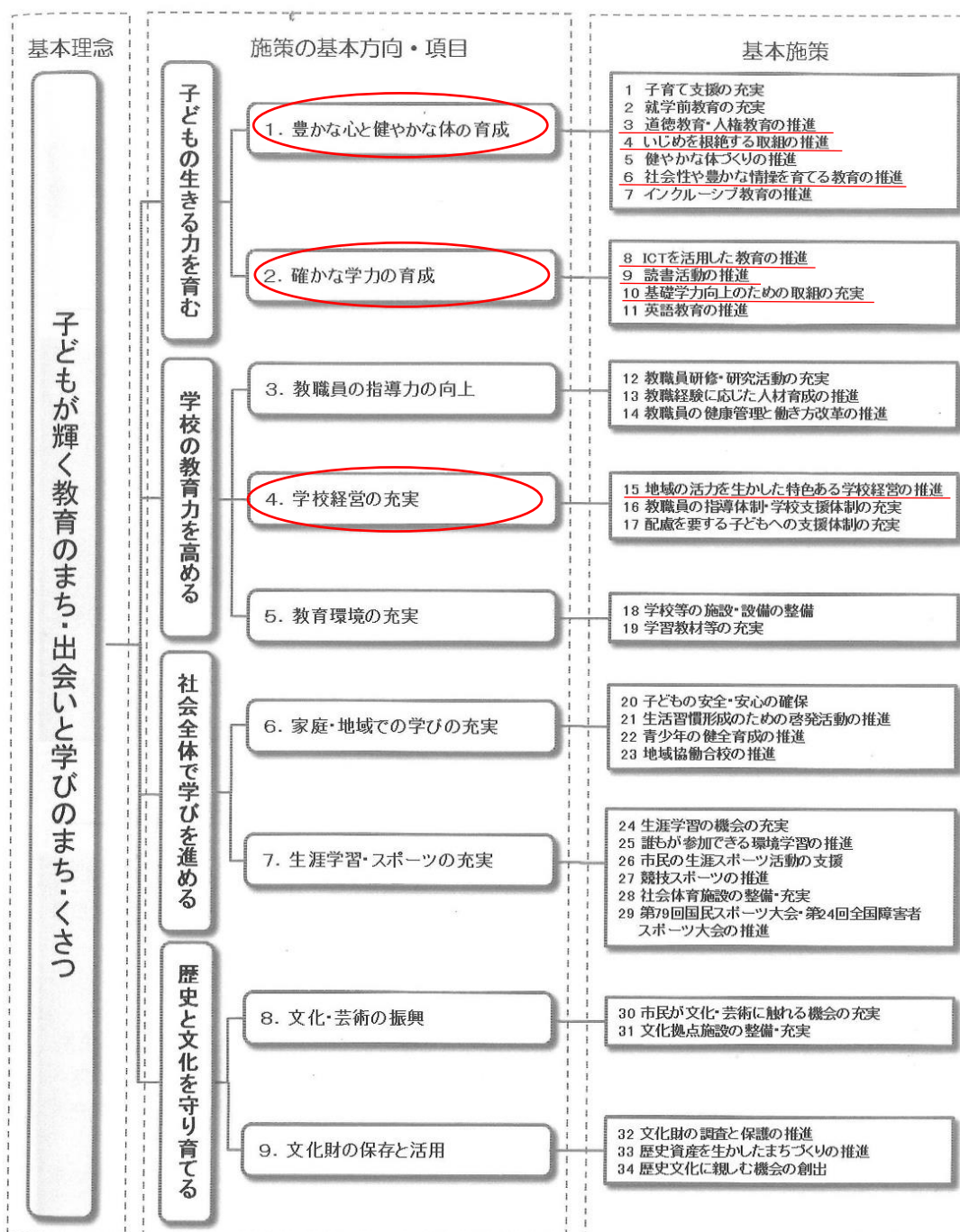
39	学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。	83.4	86.3
40	学級活動における学級での話し合いを生かし、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。	75.7	80.6
41	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。	88.6	91.7
42	国語の勉強は好きだ。	59.9	64.3
43	国語の勉強は大切だ。	92.1	93.9
44	国語の授業の内容はよく分かる。	80.7	82.7
45	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	89.5	90.6
46	国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解している。	71.9	78.7
47	国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。	73.0	80.5
48	国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いている。	70.0	76.7
49	国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。	76.7	82.0
50	数学の勉強は好きだ。	57.0	57.2
51	数学の勉強は大切だと思う。	86.7	87.2
52	数学の授業の内容はよく分かる。	72.8	75.7
53	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	75.7	78.5
54	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。	54.1	57.2
55	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。	76.8	78.1
56	数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている。	45.2	46.0
57	数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしている。	74.3	77.0
58	理科の勉強は好きだ。	63.6	68.3
59	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがある。	67.5	70.7
60	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。	65.6	71.5
61	1、2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う。	82.2	83.3
62	1、2年生のときに受けた授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う。	82.9	85.6
63	1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思う。	67.1	68.8
64	1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思う。	80.5	82.4

65	1、2年生のときの授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思う。	83.7	85.7
----	--	------	------

調査結果の分析と今後の手立て

1. 「国語・算数・数学」の問題をそれぞれ分析し、本市の成果と課題を考察しました。
 2. 子どもの日頃の生活や学習習慣に関する質問項目を7カテゴリーに分けて、成果と課題および考察を一覧にしました。
 3. 草津市教育振興基本計画（第3期）のうち、施策達成状況が読み取れるものを一覧にしました。
- ※草津市教育振興基本計画（第3期）の施策体系については、図1を参照ください。
4. 調査結果をもとに、今後の手立てを公表します。

【図1】草津市教育振興基本計画（第3期）施策体系図



1. 「国語、算数・数学」の問題分析

【小学校 国語】

(1) 出題の趣旨

大問数（3問）と小問数（14問）はR4から変更はありませんでした。昨年度に引き続き、「情報と情報との関係を捉えたり、グラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることができるか」に関して問う問題が出題されました。加えて、「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にし、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるか」に関して問う問題が出題されました。

自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することや、表現の効果を考えたりすることができる力を問う問題が出たよ。



(2) 結果

①成果

- 「思考力・判断力・表現力等」を評価する問題の正答率は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3つの項目すべてにおいて、全国平均を上回りました。また、「知識及び技能」を評価する問題正答率では、「言語の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」の項目において、全国平均を上回る結果でした。

②課題

- 「日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうか」をみる問題のみ、平均正答率が全国平均を下回りました。最も正答率が低く、誤答が多かったものとしては、漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる問題でした。
- 「思考力・判断力・表現力」を評価する記述式の問題では、無回答率が全国平均を上回りました。

【実際の問題の抜粋】

深緑小学校 村木さん 海風小学校 和田さん

② はじめまして。深緑小学校の村木です。今日は、とても楽しみにしていました。

① はじめまして。海風小学校の和田です。よろしくお願いします。

③ メールありがとうございました。図書委員のことを知りたいということでしたので、まず、海風小学校の図書委員会の取り組みのしょうかいで、読書イベントが、月に1回、図書委員会で、クイズなどをして、私もそれに参加して、今まで読んだことがない分野の本を読みました。

④ せっかく教えてもらったのですが、だれが何をしているのが分からなくなったので、もう一度教えてもらえませんか。

⑤ 説明がよくなかったですね。話し方を変えますね。図書委員会が、月に1回、クイズなどの読書イベントをしてくれます。私もクイズに参加しました。今まで読んだことがない分野の本を読むことができました。

⑥ よく分かりました。おもしろそうですね。

⑦ そうなんです。先月の読書イベントでは、図書委員がさまざまな分野から本を選び、本の内容からクイズを出題してくれました。これが、実際に出題されたクイズが書かれたカードです。私も参加することで、科学の本に興味をもつことができました。

【オンライン交流の様子の一部】

二 和田さんは、「和田さんのメモ」を生かして、村木さんとオンラインで交流しました。次の「オンライン交流の様子の一部」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【中学校 国語】

(1) 出題の趣旨

4つの大問と15の小問が出題されました。記述式の問題において、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる力や、必要な情報に着目して文章を要約する力、表現の効果を考えて文章を書く力が問われました。また、「知識及び技能」に関して、行書の特徴を理解しているかどうかをみる問題が出題されました。

昨年に引き続き、国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つである「読書」が題材として扱われました。

インターネットの「フィルターバブル現象」を取り上げ、多様な価値感や意見に触れられる本の選び方について、自分の考えを述べる問題が出題されたよ。



(2) 結果

①成果

- ・「知識及び技能」を評価する問題では、平均正答率が全国平均を2.4ポイント上回りました。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」においては、3.8ポイント上回る結果でした。
- ・問題形式ごとの正答率では、「選択式」「短答式」「記述式」全てにおいて、平均正答率が全国平均を上回りました。

②課題

- ・記述式の問題において、3問全ての問題で無回答率が全国平均を上回りました。また、正答率については3問中2問が全国平均を下回る結果となり、自分の考えを伝える文章を書く力の育成が課題であると考えられます。

【実際の問題の抜粋】

① 山岡さんたちは、国語の時間に、「フィルターバブル現象の資料」と「話し合いの一部」をもちに、グループで話題を決めて話し合っています。次の「話し合いの一部」を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈図〉

フィルターバブル現象

自分の好む情報「だけ」に囲まれ、多様な意見から隔離されやすくなる現象。

(文部科学省ウェブサイトによる。一部改変。)

〈解説〉

インターネットで検索したり閲覧したりした履歴が、使用した通信機器などに記憶され、解析されることで、その利用者の好む情報が優先的に表示されるようになる。一方で、好まないと判断された情報は、はじかれてしまう。このような、情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなったりする状態のことを「フィルターバブル現象」という。

例えば、野球についての検索を多くしていると、次第に野球に関する情報が優先的に表示されるようになる。

山岡さん 皆さんは、【フィルターバブル現象の資料】にあるような経験がありますか。

今井さん 私の兄は、時々、インターネットで検索して本を買っているのですが、趣味にしている将棋に関する本の表示が多くなったと言っていました。これは、フィルターバブル現象が起きているということでしょうか。

山岡さん 〈解説〉の例と同じような状態ですね。インターネットを利用して本を選ぶと、フィルターバブル現象の影響を受ける可能性があります。では、話題を「フィルターバブル現象と本の選び方」にして話し合ってみませんか。

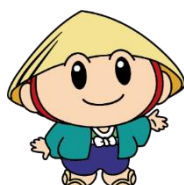
今井さん 身近なテーマでよいと思います。私は、兄のようにインターネットで本を買うことはないのですが、皆さんはどうですか。

【小学校 算数】

(1) 出題の趣旨

出題の範囲として「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域からバランスよく出題されました。問題場面を把握して、情報を整理し、複数の情報から何に着目して判断するかについて問う問題が多く出題されました。

記述式の問題では、数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べることについて、表現し判断する力が問われました。また評価の観点から見ると、除数が1より小さい場合の小数の除法の計算や立体図形の構成要素などを問う「知識及び技能」に関する問題などが9問（16問中）出題されました。



児童の生活場면을想定した問題が多く出題されました。

(2) 結果

①成果

- ・算数科の平均正答率は全国平均を2.6ポイント上回り、出題された領域の全てで全国平均を上回る結果でした。中でも「変化と関係」では3ポイント、「データの活用」では4ポイント上回る結果でした。
- ・4問あった記述式の問題では、正答率の高さ・無回答率の低さともに全ての問題で全国平均を上回る結果でした。

②課題

- ・円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ問題^[3](2)について、正答率が全国平均を1.3ポイント下回りました。直径や円周の長さや円周率の関係について、理解を深める必要があります。
- ・全国平均を上回ってはいるものの、道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題^[4](3)の正答率は、32.2%と低い結果となりました。異なる二つの数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり、表現したりする方法を考察する力に課題があります。

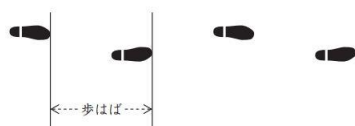
【実際の問題の抜粋】

4

あいなさんたちは、時間や速さなどについて考えています。

- (1) あいなさんは、家から学校までの歩数を求めます。

家から学校までの道のりは、540 mです。あいなさんの歩はばを0.6 mとします。



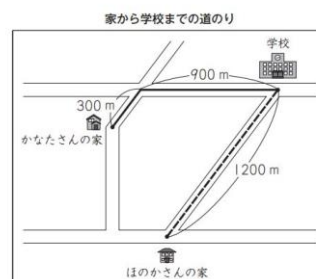
家から学校までの歩数は、 $540 \div 0.6$ の式で求めることができます。

$540 \div 0.6$ を計算しましょう。

- (2) たけるさんは、3分間で180 m歩きました。同じ速さで歩き続けると、1800 mを歩くのに何分間かかりますか。

答えを書きましょう。

- (3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 かなたさん

2 ほのかさん

【中学校 数学】

(1) 出題の概要

問題の前半では、連続する2つの偶数を文字を用いた式で表す問題や、等式を変形する問題、回転移動した後の図形の頂点を選ぶ問題など、基本的な知識・技能の定着状況をみる問題が出題されました。

複数の箱ひげ図の比較から分布の特徴を読み取り説明する問題や、箱ひげ図から四分位範囲を読み取る問題など、学習指導要領の改訂で新たに指導する内容となったことに関する問題が出題されました。

灯油を使い切るまでのストーブの使用時間について、1時間あたりの灯油使用量と灯油を使い切るまでの使用時間との関係を説明する問題や、2つの正三角形を並べたときにできる図形の性質について説明する問題など、事象を数学的に解釈し、根拠を明らかにして数学的に説明したり、表現したりする力が問われました。

ICTを活用しながら条件を変えたときに成り立つ性質を見い出して考察する問題や、不確定な事象をデータに基づいて考察する問題が出題されたよ。



(2) 結果

①成果

- ・数学科の平均正答率は、全国を3.5ポイント上回り、4領域すべてについても全国平均を上回る結果でした。特に、「数と式」については5.2ポイント、「図形」については3.4ポイント全国平均を上回る結果でした。
- ・短答式の問題の正答率が、全国平均を4.7ポイント上回る結果でした。

②課題

- ・全体的に無解答率は全国平均とほぼ同じでしたが、問題の解決方法や、事柄が成り立つ理由を説明する記述式の解答の無解答率は23～36%と高く、理解や定着の個人差が大きい傾向が見られました。
- ・各問題については、「図形」の〔思考・判断・表現〕をみる記述式の問題で、無回答率が全国平均を3ポイント上回っており、筋道を立て考え、証明する力の育成が課題であると考えられます。

【実際の問題の抜粋】

- 9 線分ABがあります。線分AB上に点Cをとり、AC、CBをそれぞれ1辺とする正三角形PAC、QCBを、線分ABについて同じ側につくります。そして、点Aと点Q、点Bと点Pを結びます。ただし、点Cは点A、Bと重ならないものとします。

桃子さんは次の図1のように点Cをとり、健太さんは次の図2のように線分ABの midpoint に点Cをとりました。

図1

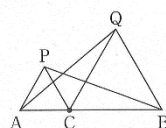
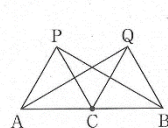
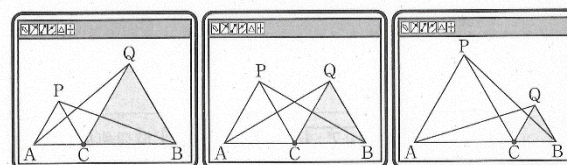


図2



二人は図1と図2を観察し、線分や角についていえることがないか気になりました。そこで、コンピュータを使って点Cを動かしながら調べました。



2. 子どもたちの日頃の生活や学習習慣に関する質問の結果

			調査結果のうち特徴的なもの	調査結果から考えられること
1	生活習慣	成果	①「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した小学生は、いずれの項目でも全国平均を上回りました。	①家庭生活の中で、「家庭のルールづくり」がしっかりされ、基本的な生活習慣を身に付けることを大切にしている保護者の意識が子どもたちに良い影響を与えていることがわかります。
		課題	①「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した中学生は、いずれの項目でも全国平均を下回りました。	①中学生になると帰宅後に家庭学習や習い事などの時間が増えることが就寝や起床の時刻など生活習慣に影響していると考えられます。
2	規範意識自己有用感等	成果	①「自分には、よいところがあると思う」と回答した小学生は83.8%、中学生は78.8%といずれも令和元年以降の最高値となりました。 ②「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した小学生は98.3%、中学生は96.4%といずれも全国平均を上回る高い数値となりました。	①「よいところがある」の回答が増えた要因としては、学校内において多様な人と関わる機会が増えたことが考えられます。学校には、担任教師以外にいろいろなスタッフがいて子どもたちを支援しています。また、総合的な学習の時間等の学びでは、地域の人々との関わりが増えています。授業においても対話的な活動が増え、友達から学ぶ機会が増えています。そうした中で、自分のよさを評価される場面が増えていることが要因と考えられます。 ②各校において策定する学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめをなくす取組の充実を図ってきました。これらの取組が子どもたちのいじめを許さないという意識の醸成に繋がっていると考えられます。
		課題	①「将来の夢や目標を持っている」と回答した小中学生の割合が全国平均を下回りました。	①夢や目標を持つためには、憧れの大人の存在は大切です。様々な人の考え方や生き方に学ぶキャリア教育の視点を大切にしていきたいと考えています。
3	家庭生活	成果	①「学校の授業時間以外に、普段、1日当たり2時間以上、勉強している」と回答した小学生は全国平均を5.3ポイント上回る28.8%、中学生は9.5ポイント上回る41.2%となりました。また、「学校が休みの日に1日当たり2時間以上、勉強している」と回答した小中学生の割合も全国平均を上回りました。 ②「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した小学生は昨年度を8.5ポイント上回る84.9%、中学生は昨年度4.2ポイント上回る72.0%となりました。	①小中学校ともに家庭学習の時間が長いほど正答率が高い結果となりました。塾などの習い事を含め、家庭での時間を学習のために有効に使っている子どもたちが多いことがわかります。 ②スクールESDでは、地域課題解決のために他者と協働し、行動するという経験を重視し、学びのサイクル（気づく・知る→調べる→まとめる→提案する→行動する・発信する）を導入し、子どもたちが提案し、行動することを大切にしています。このような学びのプロセスを経験することで地域や社会のために何かしてみたいという子どもが増えていると考えられます。
		課題	①放課後や週末の家での過ごし方についての質問では、「テレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしていることが多い」と回答した小学生は81.8%、中学生は91.3%と高く、いずれの値も全国平均を2.7ポイント上回りました。	①テレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている時間が長いほど正答率が下がることが明らかになりました。使用時間については、子どもに任せるとはならず、家庭でのルールをしっかりと決めることが有効であると考えます。
4	ICT機器の活用	成果	①「これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用した」と回答した小学生は全国平均を3.3ポイント上回る88.8%、中学生は5.9ポイント上回る94.9%となりました。 ②PC・タブレットなどのICT機器を活用することをどのように感じているかについての質問に対して、小学生は全ての項目において有効であると捉えている割合が全国平均を上回っていました。	①本市が他に先駆けて、ICT機器の導入と環境整備に取り組み、タブレット端末等を活用した授業の研究と実践を進めてきたことが、使用率の向上につながっています。 ②小学校では、「すぐに調べることができた。」「画像や動画で分かった。」など、ICT機器の活用は便利であり学習内容がよく分かると感じています。また、「友達と協力して学習する」「考えを共有したり比べたりする」ときに効果があると感じていることが分かります。
		課題	①PC・タブレットなどのICT機器を活用することをどのように感じているかについての質問に対して、中学生では、「自分のペースで理解しながら学習を進めることができた」や「楽しみながら学習を進めることができた」等の全項目で全国平均を下回っていました。	①特に中学校では、学習内容により学習ソフトを複数利用するなど、ICT機器を利用した自分の学び方も多様性が見られるようになります。そのため、学年や学習内容により利用ソフトや機能等を効果的に扱えるよう支援していく必要があるため、教員のICT活用指導力の向上を図ります。

		調査結果のうち特徴的なもの	調査結果から考えられること
5	学習活動	成果 ①小学校では、学習活動に関するほとんどの質問で全国平均を上回りました。特に「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」や「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」では、昨年度より5ポイント以上数値が上昇しました。	①小中学校では、「我が校の学ぶ力向上策」を策定し、全教職員での共通理解、共通実践のもと、校内の研究会等で授業の改善に取り組んでいます。特に「主体的で対話的で深い学び」につながる授業改善は重視しています。小学校ではその成果が表れていると捉えています。具体的には、発表や学びのふりかえりの機会の設定、考えを交流する機会の充実を図ること等、今後も授業改善を進めていきます。
		課題 ①中学校では、学習活動に関する全ての質問で全国平均を下回りました。特に「自分の考えで発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」や「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う」では、全国平均より5ポイント以上低い数値となりました。	①中学校においても、小学校と同様に、全教職員で校内研究会を組織し、「主体的で対話的で深い学び」につながる授業改善をめざしてきました。全国平均を下回った項目については、各校でしっかりその要因を分析し、よりよい手立てを早急に打ち出します。これら学習活動に関する内容項目（自分の考えをまとめる、発表する、学びを他の学びに生かす等）は、教科の学習において重視したいポイントでもあり、市が推進するスクールESDの学びの中でも重視していることから、関連させながら、授業改善を進めていきます。
6	総合・学級活動・道徳	成果 ①「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した小学生は、昨年度を2.4ポイント上回る81.2%、中学生は、昨年度を5.2ポイント上回る76.9%で、平成26年度以降最も高い数値となりました。 ②「学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と回答した小学生は、昨年度を6.7ポイント上回る84.3%、中学生は、昨年度を8.1ポイント上回る83.4%でした。「学級活動における学級での話し合いを生かし、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」と回答した小学生は、昨年度を7.5ポイント上回る82.6%、中学生は、昨年度を7.0ポイント上回る75.7%でした。	①スクールESDの導入により、総合的な学習の時間の授業改善が進んでいることが要因と考えられます。総合的な学習の時間の授業の進め方について、市として様々な機会に教員に対して研修会を実施したり、学校を訪問して支援してきました。また、各校で総合的な学習の時間のカリキュラム計画である「ESDカレンダー」を作成し、総合的な学習の時間の内容の大幅な見直しを行ったことで、実践の質が高まったことも要因として考えられます。特に小学校では、これまでの地域協働合校事業をベースに地域と連携した多様な実践が進められています。 ②学級での話し合い活動に関する2つの結果から、小中学校において話し合い活動をしっかりとできていると捉えている子どもが多いことがわかります。学校においては、子どもの権利条約やこども大綱の精神が尊重され、「こどもまんなか社会」の実現に向けて、何かを決める時には子どもたちの意見を丁寧に聞き、話し合うことを大切にしていることが要因であると考えられます。
		課題 ①「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。」と回答した小中学生の割合は、全国平均を下回りました。	①道徳が教科化されて以来、本市では「考え議論する道徳」の定着を進めており、道徳の研修会等の取組を通して教員の意識が向上していることが、子どもたちの意識の向上につながったと考えています。今回の結果を受けて、市の道徳部会を中心に、授業の充実に向けてさらなる改善を図っていききたいと考えています。
7	教科指導	成果 ①小学校では、「国語・算数は将来、社会に出たときに役立つと思う」と回答した児童が全国平均を上回りました。 ②小学校では、「算数の授業の内容がよく分かる」と回答した児童は、全国平均を3.2ポイント上回る85.3%でした。	①小学校では、どの学習も将来、社会に出たときに役立つと思うと回答する子どもが多いことから、子どもたち自身が学ぶ価値を実感し、学習課題に対して前向きに取り組むことができていると考えられます。 ②小学校の算数科の授業の内容がよく分かる」と回答した児童が全国平均を上回ったのは、子どものつまずきや課題の把握に努め、習熟度に合わせた少人数による指導や複数教員によるきめ細やかな指導を行ったことの成果であると考えられます。
		課題 ①小学校では、「算数の勉強が好きだ」と回答した児童は全国平均を3.5ポイント下回る57.5%でした。 ②中学校では、国語の授業内容に関する4つの質問項目の全てで全国平均より5ポイント以上下回る数値となりました。	①各教科の学習を好きと回答する子どもを増やしていくためには、教職員が、日々の教材研究と授業改善を通して、わかる・できる喜びを実感できる学びを子どもたちに提供していく必要があります。 ②どの教科においても言語活動の充実を図る必要があるがありますが、その要となる国語科は、言語能力を育成する中核的な教科であり、重視しています。国語の授業に関する質問の肯定的回答率が低かったことを重く受け止め、各校において結果を分析し具体的な対策を講じていきます。

3. 草津市教育振興基本計画（第3期）の達成状況

基本方向1 子どもの生きる力を育む

※肯定回答率とは、質問に対して「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した子どもの割合を示しており、％で表示しています。

※数値下の（ ）内は、施策計画当初の目標値を示しています。

目標1：豊かな心と健やかな体の育成

(%)

	施策評価の基準となる質問項目		R3	R4	R5	R6
施策3	道徳教育・人権教育の推進 「道徳の授業では自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う」の肯定回答率	小	83.3	79.1	83.9	87.1
		中	89.8	86.0	86.1	88.6
施策4	いじめを根絶する取組の推進 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定回答率	小	98.0	97.3	98.3	98.3
		中	96.9	96.5	96.9	96.4
施策6	社会性や豊かな情操を育てる教育の推進 「自分にはよいところがあると思う」の肯定回答率	小	79.6 (84.0)	81.1 (84.5)	82.8 (85.0)	83.8 (85.5)
		中	75.0 (74.0)	74.5 (74.5)	74.7 (75.0)	78.8 (75.5)

目標2：確かな学力の育成

(%)

	施策評価の基準となる質問項目		R3	R4	R5	R6
施策8	ICTを活用した教育の推進 「前年度までに受けた授業でICT機器を週1回以上使用した」の肯定回答率	小	75.3	92.2	84.5	88.8
		中	77.8	90.6	91.6	94.9
施策9	読書教育の推進 「読書が好き」の肯定回答率	小	(77.7)	75.2 (77.9)	74.0 (81.1)	質問なし (81.3)
		中	(65.0)	61.2 (66.0)	57.4 (67.0)	質問なし (68.0)
施策10	基礎学力向上のための取組の充実 「授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいた」の肯定回答率	小	80.6 (80.0)	77.8 (80.5)	79.6 (81.0)	83.7 (81.5)
		中	82.2 (74.5)	76.6 (75.0)	76.5 (75.5)	76.2 (76.0)

目標4：学校経営の充実

(%)

	施策評価の基準となる質問項目		R3	R4	R5	R6
施策15	地域の活力を生かした特色ある学校経営の推進 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う」の肯定回答率	小	73.9	72.9	78.8	81.2
		中	69.4	66.9	71.7	76.9

4. 調査結果を受けての今後の手立て（教育施策）

① 持続可能な社会の創り手を育成するため「スクールE S Dくさつプロジェクト」の実践の充実を図ります。【施策15】

- ➡本年度より「スクールE S Dくさつプロジェクト」を市立全小中学校において実施しています。全ての学年の総合的な学習の時間において、地域の課題解決に子どもたちが主体的にかかわり、地域社会の一員としての意識と行動力を身に付けることをめざした学習活動を展開していきます。
- ➡市教委のE S D担当やE S Dアドバイザー3名を各学校に派遣し、全校に配置している地域コーディネーターとともに、各校の実践を支援します。また、各校のE S D推進リーダーの研修会を定期的に行い、リーダーとしての資質・能力を高めるとともに、各校の取組の情報共有を図ります。さらに、子ども同士が、互いの実践を交流し合うための交流会「E S Dフェスタ」を新たに開催します。

② 子どもが意見を表明する機会を保障し、「こどもまんなかの学校づくり」を推進します。【施策3】

- ➡学校が、安全で安心して過ごせる居場所の一つとなり、様々な学びや体験ができ、幸せな状態（Well being）で成長できる環境づくりを進めます。市教委では、「子どもの権利条約」や「こども基本法」について、学校経営管理研修会や夏期研修講座で教職員研修を実施します。
- ➡授業等における話し合い活動で、子どもたちの声に耳を傾けるよう努めているとともに、児童会活動や生徒会活動で出された考えや意見を尊重し、学校生活を改善できるよう取り組んでいきます。

③ いじめの早期発見、組織的対応と根絶に向けた取組の充実、不登校の未然防止と支援体制の充実を図ります。【施策4・施策17】

- ➡より児童生徒が主体となった取組を進め、いじめ問題根絶への意識を高めるとともに、事案発生時の関係機関との連携など、組織対応の体制充実を図ります。
- ➡I C T機器を利用した心の健康観察により、子どもの様子を的確に把握するとともに、登校支援室の整備や関係機関との連携を推進し、不登校児童生徒の支援体制を充実させていきます。

④ 協働的な学びと個別最適な学びを一体的に行う「N e w草津型アクティブ・ラーニング」を推進するため、教員のI C T活用指導力の向上を図ります。【施策8】

- ➡教員のI C T活用指導力の底上げを図る研修および、スキルアップ支援事業にて教員の個別指導や支援を通じて、I C T活用指導力における教員間格差を解消します。特に中学校では、学年や学習内容により利用ソフトや機能等を効果的に扱えるよう支援していく必要があるため、学習ソフトの効果的な活用を推進します。
- ➡I C T支援員やI C Tスキルアップアドバイザーによる研修、支援等により具体的な利用の推進を図るとともに、各校I C T研修やG-O J T研修の活性化を図り、教員間の学び合いを促進することにより指導力の向上を図ります。

⑤ 各校が結果分析を活用して、「学ぶ力向上策」の改善・見直しを行います。【施策12】

- ➡校長は、自校の調査結果と学校経営上の相関についての分析を行い、教職員と一緒に「我が校の学ぶ力向上策」の見直しを行い、2学期以降の具体的な取組を決定します。市教委の学校担当指導主事は、各校の結果分析や具体的な取組について支援します。各校が設定した具体的な取組の実施後、校長は、達成状況を分析し、学校経営報告会にて成果と課題を公表します。